

平成29年度 第2回企業向け人権啓発講座

日時：平成29年6月15日（木）14：00～16：00

テーマ：セクシュアルマイノリティとして生きること

～当事者がカミングアウトしなくていい社会づくり～

講演：小林 和香 氏（神戸IDAHO 代表）

内藤 れん 氏（れいんぼー神戸）

【はじめに】

○講師（小林氏）

小林和香と申します。

お集まりいただき、ありがとうございます。

○講師（内藤氏）

内藤れんと申します。

○講師（小林氏）

皆さんのお手持ちの資料に、質問用紙があります。休憩の時間に、その質問用紙を全ての方から回収したいと考えております。疑問に思ったことや聞いてみたいと思ったことがありましたら、2人とも質問され慣れていきますので、遠慮なく、何でも書いていただけたらと思っております。では、1時間50分という少し長めの時間になりますが、どうぞよろしく願いいたします。

【講演】

○講師（小林氏）

まず皆さん、きょう初めてセクシュアルマイノリティの講演とか研修会に出るといふ人は手を挙げていただけますか。ほとんどですかね。

それでは、LGBTという言葉の意味を知っているという方、どれぐらいいらっしゃるでしょうか。ありがとうございます。

LGBTは、レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダーの頭文字で、皆さん御存じのとおり、メディアなどでは、セクシュアルマイノリティよりもLGBTという言葉の方が、使われることが多くなってきたかを感じています。

ただ、今日はあえてLGBTという言葉は使わないで研修をさせていただきます。と言いますのも、LGBTという言葉が浸透してきてメリットもあると思うのですが、それによって誤解を生んでしまうこともあるということ、少し気を付けないといけないと考えているからなんです。

まず、L（レズビアン）・G（ゲイ）・B（バイセクシュアル）・T（トランスジェンダー）の四つしかセクシュアルマイノリティの種類はないのではないかという誤解、こういう誤解を持っている方もいらっしゃいます。決して、

L・G・B・Tの四つだけではなく、今日お集まりいただいた皆さんも含めて、全員、性別というのは違うんです。もうちょっと後のスライドで詳しく御説明させていただきますが、性別というのは、一人一人違う、十人十色のものです。決して、LGBTの四つだけではありません。

二つ目に、セクシュアルマイノリティの課題は、全ての人に関わる話です。LGBTという言葉を使うことによって、LGBTという、どこか遠い世界の、例えばテレビに出ている人、この場所にはいない少数派の人たちのことを学ばばいいんだという誤解が生まれると思っています。

今日お話する前に、まず、講師の私が思っている目的を共有したいのですが、今日はセクシュアリティという言葉を用います。セクシュアリティというのは、セクシュアルマイノリティの前の部分の言葉ですが、性の多様性を表す言葉です。性の在り方のことをセクシュアリティといいます。セクシュアリティの話は、マイノリティの人たちのための話ではなく、それ以外の人のセクシュアリティも含めて、どんな社会を作っていくのか。今日、企業の方々が来てくださっているとありますが、色々なセクシュアリティの人が一緒に働いている会社で、みんなが居心地良い企業風土を作っていくには、どうしたらいいのかという人権の話です。

LGBT市場とかLGBTマーケットという言葉が出てきて、その7.6パーセントと言われているLGBTの人たちを、どうマーケティングしていくのかということも言われていますが、今日はそういった切り口ではなくて、人権の話ということの一つ頭に置いて、お話を聞いていただければと思います。

皆さんは、様々な立場で来られていると思います。例えば、会社では、自分は上司の立場だ。部下の立場だ。同僚がいるとか。家に帰ったら自分は親である。若しくは子どもである。友人にとっては大切な友達であるとか、そのような立場で来られていると思います。

では、もし自分の友達がセクシュアルマイノリティだったら、自分はどんな人間でありたいのかということのを少し考えながらお話を聞いていただけると、納得いくようになるかと思えます。

7.6パーセントがセクシュアルマイノリティだという調査結果がありますが、パーセンテージは関係ないと思っています。これは、後で御紹介する淀川区の職員さんに言われたのですが、あるとき私が、「いろんな調査があるんですよ。10パーセントであったり、5パーセント、3パーセント、最新は7.6パーセント、13パーセントという調査結果があったり、どのパーセンテージを使えばいいんだろう。」と悩んでいたら、あるLGBTの担当の職員さんが「小林さん、パーセンテージは全く関係ないですよ。その会社に、その地域に1人でも困っている人がいるんだったら、手を差し伸べるのが当たり前でしょう。」と言われました。ですので、今日の配布資料には、その数字は入れておりません。

是非、皆さんの会社が、セクシュアルマイノリティだけでなく、例えば、どんな障害があっても、どんな出身地でも、どんな国籍でも、どんな性別でも働きやすくて、どんなお客さんに対してもサービスを提供できて、そこにいる社員が、生き生きと働ける会社になれるように、役に立てるお話が少しできたらと思っています。

今日は、『セクシュアルマイノリティとして生きること～当事者がカミングアウトしなくていい社会づくり～』とありますが、この当事者がカミングアウトしなくていい社会づくりとしたのには、すごく強い思いがあって、こういった研修会や講演会を開くと、感想用紙に必ず「うちの会社にはいないですが」と前置きを書いてあったり、「カミングアウトしやすい雰囲気に行きたいです。」とか書いてくださいます。それは違うんです。カミングアウトしやすい雰囲気にするのではなくて、当事者がカミングアウトをしなくても、居心地がいい場所を作ってほしいです。

後で私たち2人の体験談を話していきますが、当事者が、例えば自分はレズビアンなんです。ゲイなんです。性同一性障害なんです。1人で、誰も理解してくれない職場でカミングアウトするというのは、ものすごく勇気とリスクがあるんです。場合によっては、会社を退職しないといけないこともある。そういった中で、当事者がカミングアウトをする雰囲気を促すのではなくて、是非皆さんがカミングアウトしてほしいです。

例えば、今日研修を受けたこの資料、この資料を家に帰って家族に見せて説明してみる。会社に戻ったときに、この資料を同じチームの人に、こういう勉強会を受けてきたんだと話してみる。それが、一つのカミングアウトの方法だと思います。自分は、全てのセクシュアリティの人の味方だというカミングアウトを、是非していただきたいです。

まだ気持ちに余力があるという人がいたら、やってみてほしいのですが、自分が同性愛者であるということを、親しい人に偽のカミングアウト、うそでいいのでカミングアウトできるかということのを少し考えてみてください。

もしかしたら今、資料を見せて説明するぐらいはできるかもしれないけど、うそでも自分が同性愛者だというのは抵抗があると感じる方もいらっしゃると思います。

もし良ければ、研修の後にイメージして、もし自分が同性愛者で、誰かにカミングアウトしないといけないと思ったら、どんな気分になるのかということのを考えるきっかけにしていだければと思います。

少し前置きが長くなりましたが、2人とも自己紹介をしていきたいと思えます。まず内藤さんからお願いします。

○講師（内藤氏）

内藤れんと申します。よろしく申し上げます。

1994年生まれ。もし大学に通っていたら、今年新卒で就職した年齢に

なります。私の場合、高校を中退して、今は働きながら、定時制の高校に通っているのですが、同級生は新卒で就職して働いていく中で、やっぱりセクシュアルマイノリティの仲間というのは、そうではない、別の中学校時代からの友達なんかと比べて、すごく悩んでいることが多いです。そういったことを、お話できればいいかと思っています。

休みの日は、セクシュアルマイノリティのコミュニティスペースのスタッフをしております。コミュニティスペースって何かということですが、セクシュアルマイノリティの人が集まって安心して話せる場というのが各地にあります。私は神戸で「れいんぼー神戸」という、そういうコミュニティスペースを主催しているのですが、大阪にも似たようなスペースがあって、QWRC（クォーク）とかG-FRONT関西と言われるところですが、そういったところのスタッフ活動も行っております。

2013年から、こうやってセクシュアルマイノリティの当事者として、こう理解してほしいということをお伝えするという活動もしております。

#### ○講師（小林氏）

私は1986年生まれで、今年31歳になりました。元々卒業論文で、セクシュアルマイノリティについて調べたことがきっかけで話すようになりました。後でお話ししますが、最初に新卒で入った会社で、自分のセクシュアリティをばらされてしまう経験をしました。

その後、去年退職したのですが、LGBTと職場環境に関するNPO法人に入社して、その中で大阪市淀川区のLGBT支援事業の事務局長などをさせていただいております。

神戸IDAHO（アイダホ）という団体、路上で約4時間、チラシを配ったり、セクシュアルマイノリティについて知ってくださいということをマイクで呼びかけたりという活動を7年間続けています。この写真は三宮のマルイ前で、写っているのは15人ぐらいですが、実際には44人集まりました。

この写真、じっくり見ていただきたいのですが、何人いるでしょうか。よく見てみると、旗があるけど顔を出してない人たちがいます。セクシュアルマイノリティの活動の写真を新聞とかテレビで見ていると、旗をはためかせて、さわやかとか、元気よくとか、自信ありげにとか、そんな写真を見ることも多いと思いますが、実際には顔を出せないという人がほとんどです。メディアで「セクシュアルマイノリティです。」「当事者です。」と顔を出している人というのは、親に言えて、職場に言えて、地域の人たちにも言えている、極僅かな人たちなんです。ですので、神戸IDAHOに集まってくる人たちは、絶対に同級生に会わないでいいように変装して参加するという人もいます。内藤さんは、神戸出身で神戸の学校に行っているのですが、当日は変装して、髪の毛染めて、サングラスをかけて、マスクをするといった変装をしています。

この写真、とても楽しそうには見えますが顔を出せない。本当はそういう現実があるということをお伝えしたいと思って、この写真をお見せしました。

ここから、最近のセクシュアルマイノリティに関するイベントについて、御紹介させていただきたいと思います。お手持ちの資料には載せていませんので、前のスライドを見て、今こんな活動が広がっているということを見ていただければと思います。

先日、東京レインボープライドというイベントが行われました。

これは、10万人以上の人が集まるような大イベントでして飲食店のブース、企業ブース、パレードをしたり、歌手の方が来て歌ったりなど、東京ではかなり大きなイベントで、40以上の企業がブース出店していました。名前を見て、はっと思うような所だけを集めて載せているのですが、中でも丸井グループは、このように、東京の交差点のど真ん中の一番目立つ所に、こういったレインボーマークと会社のロゴを載せたものを、ここだけではなくて全国展開をして、いろんな場所でレインボーのマークを載せていました。

このレインボーマークというのは、レッドリボンとかピンクリボンとかいろんなシンボルってありますが、それらと同じように、セクシュアルマイノリティのプライドカラーとして使われるものです。7色ではなくて6色のレインボーというところがポイントです。企業がセクシュアルマイノリティに関して、フレンドリーであるということアピールするステッカーを配っている会社も増えてきています。

神戸のマルイの前で活動しているのですが、去年、普通にマルイに遊びに行ったときに、偶然レジの所に、たぶん啓発ウイークか何かだったと思いますが、レインボーフラッグが置いてあったんです。即座に数えまして、「1・2・3・4・5・6、6色だ。これは間違いなくセクシュアルマイノリティのイベントか何か応援しているんだ。」と思いました。雨が降っていたので、傘を買いに行ったのですが、値段が高い暴風に強いものと、安くてデザインが気に入らないもの、すごく悩んでいたんですが、ふと店員さんを見たら、6色のレインボーのバッチを付けていたんです。それで、「すみません。これって、もしかしてセクシュアルマイノリティの啓発イベントの一環で付けられているんですか。」と聞くと、「そうなんですよ。」と会話になって、思わず嬉しくなって、高い方の傘を買ったということがありました。

そんな本当に些細なことですが、普段、イベントでも顔を出せなかったり、その場所にいないことにされていることがあったりするような現状の中で、日常の中でふと応援してくれている人や会社を見ると、「この会社の物を何か買おうかな。応援しようかなあ。」という気持ちになります。

何枚か、東京レインボープライドのツイッターからの写真ですが、企業ブースと、パレードの様子です。様々な企業の社員さんたちが参加して、ブースを盛り上げるというようなことが、東京で行われているイベントの中では、

普通のことになってきています。右上のパレードの写真ですが、これはほんの一部で、5,000人の人が一緒に歩いたそうです。

また、先週発売された『AERA』という雑誌、こちらを読んだという方、どれぐらいいらっしゃいますか。もう売ってないかな。週刊誌なので、もしかしたらもう売ってないかもしれませんが、まだありそうだったら、帰りに本屋さんへでも寄って聞いてほしいのですが、「LGBTブームの嘘」と題した、10ページ程度のセクシュアルマイノリティに関する特集が組まれていました。

10年前だったら、経済誌にセクシュアルマイノリティのことが載るとするのは、考えられないことでした。でも今は、経済誌であつたり新聞であつたり、メディアでも真剣に、これは「企業で取り組まなければならないことなんだ。」ということで、知らないことが、企業として時代遅れなんだ。そういう時代になってきています。

今回の『AERA』で特集されていたのは「LGBTブームの嘘」という、刺激的なネーミングになっていますが、内容はものすごく良くて、94の自治体にアンケート調査を取り、今後、同性パートナーシップ証明書やLGBT支援宣言を展開していく予定はあるかというアンケートになっています。その内容が詳細に紹介されていて、周囲でもすごく反響があつた一冊になっています。少し内容を紹介します。

2013年9月に大阪市の淀川区が、行政機関として初めてLGBT支援宣言をしました。これはなぜ支援宣言をしたかは、何が良かったか、なんでこんなことができたのかというのは、費用が掛からずできたからです。支援宣言というのが良いですね。ただ「私たちは、これからLGBTのことを勉強していきます。」と宣言しただけなんです。でも、そのことが行政から出されるということは、ものすごい説得力になります。行政がこういった支援宣言を出して、地域の広報誌に、全家庭に配られる地域誌に、LGBT支援宣言をしましたと載せたんです。区長が旗を持って。これはものすごくニュースになりました。

それ以降、講演会であつたり、コミュニティスペースであつたり、電話相談、啓発リーフレットの製作などに取り組まれています。

例えば、心の電話相談とか、女性のための相談窓口とか、区役所・市役所に行ったら福祉の窓口があつたりして、障害者だったら、ここに行ったらいいとか、高齢者だったら、ここに行ったらいいっていうのが分かりますが、セクシュアルマイノリティの場合は、どこに相談しに行ったらいいかが分かりません。多くの人たちが、相談しに行ったけど、とても差別的な言葉を言われて、相談できなくなつてしまったということがあります。

「いないのではなく、言えない」と、資料に書いていますが、1,000件以上の相談があつた。これは冒頭にお話したとおり、いないと考えるのは、間違っています。「うちの会社にはいない、うちの家族や親戚にはいない」で

はなく、いるけど、言えないというのが現状なんです。

私が2014年4月から2016年4月まで2年間、このLGBT支援事業をどう進めるかという仕事を担わせてもらったのですが、印象に残っていることをお伝えします。

まず、このポスター。これは、私もイラストを描かせてもらったのですが、何がすごかったかという、町中にポスターとかが貼ってある広報板ってありますよね。淀川区役所には74箇所に広報板があります。今、学校の前とかにもある広報板全てにこのポスターが貼ってあります。セクシュアルマイノリティのことを知らない子どもや先生でも、学校の行き帰りとか通勤するときとかに、「何だろう。」と、このポスターを見ることができます。自分がセクシュアルマイノリティだと気付いたときに、区役所が「セクシュアルマイノリティでもいいよ。」と言っているんだから、自分はそんなことで悩まなくていいんだということが感じられます。これは、本当にすごいです。

こちらは小さく見えますが、実はこれ、淀川区役所の正面玄関の写真です。ものすごく大きな、このスクリーンぐらいあるフラッグが貼ってあって、それだけではなくて、セクシュアルマイノリティとは何かというのが詳細に説明されています。これを地域のおばあちゃんとかおじいちゃんも見て、区役所の中へ入って行くわけです。本当にすごいことだと思います。

左上の職員の名札には、マスコットの夢ちゃんという淀川区のマスコットキャラクターと6色の虹が入ったマークを全職員が付けています。これによって、「全職員がセクシュアルマイノリティの研修を受けています。」ということアピールしています。

淀川区LGBT支援事業担当の方、数人が中心になって、事業を盛り上げてくださったのですが、先程も言ったので重複しますが、「何パーセントいるかは重要じゃない。」と言ってくれました。一生残る一言だと思います。

淀川区、皆さんあんまり知らないと思います。十三駅がある所ですが、私も知りませんでした。このLGBT支援宣言をした後、多くのメディアに載りまして、今は海外とか各都道府県から、取材とか視察が毎月あるようです。先日はオランダからも視察に来てました。沖縄から北海道まで、各地のセクシュアルマイノリティの団体は、淀川区のことを知らないところはないぐらい有名になりました。それぐらい、セクシュアルマイノリティのことをしっかりやっているとアピールすることは、行政にとってチャンスにもなるのかと思います。

このニュース、もしかしたら御存じの方もいるかもしれませんが、先日、台湾で、アジアで初めて同性婚を容認する判決が出ました。これは何がすごいか。まずアジアで初ということ。インバウンドとか言われていますが、観光客の方の中でも、今アジア圏の方ってすごく増えていますよね。その中に、既に同性同士で結婚している方が、今度、台湾から日本にどんどん来られています。イメージしづらくかもしれませんが、例えば、台湾の方が日本に旅行に来たら、まずホテルに泊まって、お店に行ったり、もしかしたら銭湯と

かにも行くかもしれないし、いろんな所を観光されますよね。そういうときに、男女のカップルでないと使えない所がたくさんあって、まずホテルに宿泊するとき男女でないと、同じ部屋、一つのベッドは断られたり、そういうことがあるかもしれません。これからは、そういうカップルさんがたくさん来るということです。

教育現場では、教育の指導要綱にセクシュアルマイノリティのことは、まだ入っていません。なので、社会人になってから、こういった研修をする場所でセクシュアルマイノリティのことを学んでいくということがすごく重要だと思います。

では、日本は今どうなのかということですが、日本でセクシュアルマイノリティに関する法律というものは、「性同一性障害特例法」一つしありません。これを見ると、もしかしたら性同一性障害については進んでいるのではないかと考える方もいらっしゃるかもしれませんが、これは世界レベルで見ると、とても遅れている法律です。世界から、この法律はだめだと言われている法律なんです。何がいけないかというと、今、戸籍上の性別を変える要件がものすごく厳しくて、その中でも特に生殖機能をなくさなければならないという要件があります。生殖機能をなくして、子どもが産めない体にしないと、戸籍上の性別を変えられないと。それに、保険の効かない手術をして、親にもカミングアウトして、職場にもカミングアウトして、自分の体を傷付けてまで性別を変えられる人がどれだけいるのか。ほとんどいないです。体の手術をしなくても、お金を払って体を変えなくても、自分の望む性別で生きられるようになった方が良いと思います。

国レベルで同性カップルに法的保障がないのは、G7のうち日本だけというのが現状です。

今メディアでは、パートナーシップ証明書ができたとか、日本で同性婚ができる所もあるみたいな認識されている方もいらっしゃるかもしれませんが、その話題のパートナーシップ証明書というのは、ただの紙切れです。男女の結婚と同等の権利というのは、全く与えられるわけではありません。

先ほど、台湾のカップルや結婚された同性カップルも来られるかもしれないという話をさせていただきましたが、東京オリンピックがある2020年までに、全ての企業がセクシュアルマイノリティの研修を受けていないと、本当に大変なことになると思います。世界中から、同性婚が認められている御家族の方であったり、例えば選手のパートナーであったりという方、トランスジェンダーの方も来られるでしょうし、いろんな方が来られたときに、日本はどのように受け入れる態勢を取っておくのかというのは、今、ものすごく課題ですし、早急にしないといけないことだと思います。

2016年の秋に、ゲイカップルが大阪府内の宿泊施設で利用拒否されたというニュースがありましたが、宿泊拒否というのは違法なんです。でも『A

ERA』を読んでいただいたら分かりますが、これを知らないという会社もたくさんあって、電話調査の結果も載っていますが、約半数の会社が、全く拒否はしないけど、丁重にお断りしているという感じで書かれていました。

つまり、どういう企業でありたいのか、セクシュアルマイノリティについて学ぶというのは、そのマイノリティの人たちをどう扱うのかという話ではなくて、お客様にどういうサービスを提供するのか、従業員に生き生き働いてもらうためにはどうすればいいのか、辞めてしまう社員をどうしたら辞めさせないですむのか。そういう話です。是非これを機会に、社内環境とかサービスを見直していただけたらと思います。

これも『AERA』に掲載されていた情報ですが、実施しているLGBT施策ということで、94自治体にアンケート調査を取って、およそ3分の1の自治体が、何らかの研修をしているんです。この数年で100パーセントになる日も近いのではないかと、最近の流れを見て思います。

では、どうして企業の方々向けに、行政の動きの話をお伝えしたかというところ、渋谷区でこういった条例が出されたからなんです。まず渋谷区は、同性カップルにパートナーシップ証明書を発行しました。かなりニュースになっていました。私をもっと重要だと思っているのは、セクシュアルマイノリティに関して、理解のないサービスを行った企業や団体に対しては、自治体がこの場合だったら渋谷区が是正勧告ができるという条例なんです。ですから、渋谷区内で同性カップルだったから断られたとか。携帯電話や映画館とかでもカップル割とか夫婦割とかありますよね。それを使いたいと言った同性パートナーシップ証明書を取った渋谷区の人たちがいて、「だめです。あなたたちは同性だから。」と言われたら、それを区に言いに行くと、区から企業に「そういうことはだめですよ。」と是正勧告がされるわけです。それを直さない場合は、その企業名・団体名を公表するということになっています。

この渋谷区の条例は、ロールモデルになってどんどん他の自治体に同じような条例が広まっていくと思います。そうなったときに企業として、どういったリスクマネジメントをするのかという話になります。

ここからは少し頭を切り替えて、皆さんと一緒に、そもそも性別って何だろうという話を、内藤氏さんにも入ってもらいながら話していきたいと思います。

お手持ちの資料の1, 2, 3, 4, 5, 6と数字が並んでいるページを開けてお聞きください。

「あなたの性別は何ですか。」、こんなことをあまり考える機会もないと思いますので、是非頭を柔らかくして、小学生ぐらいのときの頭に戻すようなイメージで考えていただきたいと思います。六つに分けて考えてみてください。例えば、今自分が男性だと思う場合、なぜ自分が男性だと思うのか。女性と思う場合、なぜ女性だと思うのか。どちらでもないと思うのであれば、

なぜどちらでもないと思うのかという理由を、体が女性だからとか、ネクタイをしているからとか、そんな感じでいいので、と書いてみていただけますか。

## (再開)

○講師（小林氏）

内藤さんと話していて、六つぐらいにしようかとなったのですが、いろんなセクシュアルマイノリティの研修があって、三つでお話されるか方であったり、四つでお話される方であったり、もっと広い切り口で多角的に見る方であったりがあります。特に答えはありません。性別を見るときに、性ってなんだろうと考えたときに、これでいけないという答えはありませんが、今日は六つで考えてみたいと思います。

今からお話しする内容は、セクシュアルマイノリティの人だから、特に変わっているとか、セクシュアルマイノリティの人だから、色々あるとかではなくて、皆さんの中にもある性別について一緒に考えたいと思います。今から私たちの性別も説明していきますので、小林さんはここに丸をしているけど、自分はどうかと少し考えながらお話を聞いていただきたいと思います。では、内藤さんに説明してもらいます。

○講師（内藤氏）

性別を六つに分けて考えるということで、一つ目は性自認です。

性自認というのは、私の性別をどう思うか、自分の性別をどう捉えているかというのを性自認と言います。あなたの性別は何ですかと聞かれて、一番に出てくる答えが性自認です。

二つ目、性表現です。どのようなファッションだとか、どのように表現するのかを性表現と言います。女性らしいしぐさ、男性らしいしぐさ、女性らしいファッション、男性らしいファッションとか、そういうことを性表現と表現しています。

三つ目、性染色体です。染色体の試験検査を受けたことがある人は少ないと思いますが、人には染色体が何十個かあって、一番最後にXXだとか、XYだとか、X単体だとか、様々なパターンがあるのですが、その最後の染色体が性染色体です。

四つ目、身体的特徴の性別です。身体的特徴の性別は、例えば筋肉質であるとか、にきびがしやすいとか、胸が膨らんでいるとか、性器の形状がどうであるとか、そういったところを身体的特徴の性別と呼んでいます。

五つ目、身体的アイデンティティです。これは説明が難しいのですが、自分の体の性別の特徴がどうかに関わらず、自分の体の性別をどのように捉えているか、男性と捉えているのか、女性と捉えているのか、どちらでもないか、そういうところを身体的なアイデンティティと呼んでいます。

六つ目、好きになる相手の性別。これはそのままです。好きになる相手が男性なのか、女性なのか、その他なのか、男女関係なく好きになるのか、男女関係なく好きにならないのかといったところです。好きになる相手の性別というのも、好きになる相手にも六つの性別があったりするので、細かく書いていくといつまでも限りなく続いてしまいます。

染色体のときにXXとXYとX単体とかあると言ったのですが、X単体であったり、XXYであったり、典型的な男女でない染色体とか、性器の形状が典型的な男女でない形の人というのを性分化疾患と呼ばれています。そういう性分化疾患の多くの方は、自分のことを男とか、女と捉えていて、男でもない女でもない性とか、男でも女でもない性だとか、中性だとか、インターセックスという言葉を使うことで傷付ける可能性がとても大きくあります。ですので、私たちは、男でも女でもない性別という言葉は使わないようにしています。皆さんも是非そのようにしていただければと思っています。

もし関心のある方はネクスDSDジャパンというホームページを見ていただければ、詳しい資料が載っておりますので、よろしければ参考にしてください。

#### ○講師（小林氏）

最初にLGBTという言葉の説明をしましたが、いろんな言い方があります。LGBTI、LGBTIQなど、LGBTに「I」や「IQ」などが付いたりします。性分化疾患のことを英語でインターセックスというので、性分化疾患の人も含めてセクシュアルマイノリティを表しているということを強調したいときはLGBTIと言ったりします。Qはクィア（Queer）と言って、変態という意味ですが、アメリカでは、「私たちは変態だ。」ということポジティブに使われ始めて、クィアという言葉が使われています。ですので、セクシュアルマイノリティである人も、そうでない人も含めて、セクシュアリティのことを表したいときにLGBTQという言い方をしたりします。

今から、私たちのセクシュアリティは何なのかというお話をします。いろんなセクシュアルマイノリティの研修会があります。何が正しいか、何が合っているかは全くないと思いますが、私がすごく注意して話しているのは、「性別というのは、性別で分けられるものではありません。性別の「別」は、性別の多様性ではなく、性の多様性です。」ということです。

トイレのマークをイメージしてください。男は青で、女は赤。その二人が、女と男が付き合うのが異性愛で、女同士だったらレズビアン、男同士だったらゲイ、どっちも好きになるのがバイセクシュアル。違う研修会で、そのように番号分けしているのを見たことがあります。セクシュアリティのパターンというのは、「20何通りです。」という説明をされていることがありますが、私の考え方としては、セクシュアリティというのは、無限にあるので、無限大のマークを使いたいぐらいです。何パターンかに分けられるものではないということを強調したいと思っています。

もしかしたら皆さんが、今後、会社で「自分はセクシュアルマイノリティです。」とカミングアウトされたり、もしかしたら、既に友人からカミングアウトされたことがあるという方もいらっしゃるかもしれません。少し難しい言い方になりますが、カミングアウトされたときに、その人のセクシュアリティを見るのはやめてほしいです。例えば、その人が「レズビアンです。」と言ってきました。その人がレズビアンだから困っていると考えてるのではなくて、その人が何に困っているかに注目してほしいです。レズビアンだから困っている、トランスジェンダーだから何かに困っているという数学みたいな正解があるわけではありません。まず、その人が何に困っているかを聞いた上で、「ああそうか、それであなたはレズビアンなのか。」という視点で考えていただけたらと思います。

内藤さんの性別は、どんな性別でしょうか。

○講師（内藤氏）

順番に御説明します。

私の性自認、自分の性別をどう捉えているかですが、これは男性寄りにあるかと思っています。元々私は男だと強く思っていました。同じセクシュアルマイノリティの仲間に出て話をしていく中で、あまり男というところにもこだわらないと思うようになって、少しだけ中性寄りに丸を付けました。

性表現は中性的でありたいと思っています。今日もパーカーにノージェンダーと書いたTシャツですが、あまり性別とか関係のないファッションをしているかと思っています。

扱い方というか、人と話すときでも、男女というものを意識して話されるのが苦手で、以前働いていた会社にお弁当を持って行きました。ショウガ焼きと御飯の入ったお弁当を食べていたら、会社のおばちゃんから、その会社で私は女性として働いていたのですが、「もう少し彩りとか考えたらどうなん。」というアドバイスを受けました。そのときは「分かりました。」と言って食べていました。次に新しい会社で、今度は男性として働いていたときに、全く同じお弁当を持って行きました。にもかかわらず、同じ会社の同僚のおばちゃんから、「男の子やのに弁当作ってきて偉いね。」と褒められました。そのギャップというのが、少し気持ち悪いなと思って、性表現としては中性的でありたいと思うようになりました。

性染色体については、これは完全に女性です。血液検査をしまして、染色体がずらっと書いてある表みたいなものをもらったのですが、一番最後がXXとなっていて、完全に女性体でした。性器の形状などの検査を受けたのですが、性器の形状も完全な女性ですと認定されました。なぜそんな検査を受けたのかと言いますと、トランスジェンダーの人の中で、身体的な治療を受けたい人が「性同一性障害」という診断名を受けるのですが、その性同一性障害の診断基準に、「性分化疾患ではないこと」という要件があるので、性分化疾患ではないということを証明するため、あなたは女性ですという再認定

をされるために、わざわざ検査を受けました。

血液検査で約3万円、偶然、給料日で、財布にお金があったので良かったですが、そうでなかったら、病院の会計のときに困ってしまうところでした。

身体的特徴の性別。元々は完全に女性体でした。胸も膨らんでいたし、声ももっと高かったです。何年か前に胸をとる手術を受けて胸を平らにしまして、男性ホルモン注射というのを打って、定期的に打っているんですが、それによって生理、月経が止められたり、声が低くなったり、ニキビができやすくなったり、髪が薄くなったりなどのメリット・デメリットが色々あるのですが、そのような変化を経て、今こういう見た目になっています。身体的な特徴としても、大体中性かと思っています。

もしかするとこの先、私が例えば手術を受ける、性別適合手術を受けるなどの何らかの理由で男性だと思えることができるようになれば、身体的な特徴の性別だとか、身体的なアイデンティティの部分というのも男になることもあるかもしれません。

5番目、身体的なアイデンティティですが、これも現在、自分は中性だというアイデンティティを持っています。男でも女でもない今の体ということ自分を受け入れているので、身体的なアイデンティティというのも中性であるかと捉えています。

6番目、好きになる相手の性別ですが、これが難しく、初恋が小学校4年生のときでした。4年生のときに1年生の頃からの大親友の女の子のことを好きになり、自分はレズビアンなのかと悩みました。性同一性障害という言葉は知っていましたが、性同一性障害で女性から男性になる人はみんなひげを生やして、頭を丸刈りにして、筋肉を鍛えていると思っていました。テレビに出ている人はそういう見た目だったので、そうに違いないと思っていました。自分はそうではないので、レズビアンだと思って中学校まで過ごしていました。あるとき掲示板で知り合った人とメールをしていたら、「あなたトランスじゃないの。」と言われました。トランスって何なのかと思い調べたら、トランスジェンダーという言葉に出会って、性別を変えて生きる人とか、変えて生きたいと思う人のことで、手術をしたいとは限らないし、服装だけ異性の格好して満足な人もいと書かれていて、それを読んだときに、私ってトランスジェンダーとだったんだと思いました。

小学校4年生のときに好きになった女の子のことが、それから二十歳ぐらいまでずっと好きでいました。片思いで何回か振られて、それでもあきらめ悪く好きだったのですが。あるとき好きではなくなりました。私って誰が好きなんだろうと考えたときに、あの子が女の子だったから好きなわけじゃないと思ったんです。ということは、性別を関係なく好きになる人なのかと考えたときに、いや、恋愛にそんなに興味がない、そもそも恋愛をしない人なのかもしれないと思うようになりました。

今は性別関係なく恋愛するのか、恋愛しないのかのどちらかだろうと思っていますので、好きになる相手の性別というのはクエスチョンマーク、分かりま

せんと印を入れました。

○講師（小林氏）

では、私の性別です。一番上から説明していきたいと思います。

私は自分がセクシュアルマイノリティだと気付いたのが遅くて、約10年前の21歳ぐらいのときです。皆さんもそうだと思いますが、学校教育の中でこんなことを教えてくれないですね。今は学校現場でも研修など増えてきていますが、当時は、女性が女性を好きになるとか、男性が男性を好きになるとか、女性から男性に変わる人がいるとか、逆もあつたり。恋愛をしない人もいるとか、複数人と恋愛をする人もいるとか、そんな知識は全くなかったです。大学生のときにこの表を見たときは性自任は女性、性表現は女性、性染色体も調べたことないのに、なんとなく女性と思い込んでいて、身体的特徴も女性。身体的アイデンティティも女性、好きになる相手は男性と決めつけていたんです。

大学を卒業してから、内藤さんが運営しているようなセクシュアルマイノリティのコミュニティスペースとかに出入りするようになって、たくさんの人に出会いました。それまで、セクシュアルマイノリティの人に会ったことがなかったのに、こんな人たちだろうと勝手にイメージしていました。大学4回生のときに初めてセクシュアルマイノリティの人の講演会に行きました。当時は皆さんと同じ立場で。当事者の話を聞いて、「へえ、こんな人がLGBTなんや。」という感じで話を聞いていました。その後の座談会で10人ずつぐらいで円になって話す機会がありました。こんなに私と同じように勉強したい人がたくさん来ているのかと思って話をしていたら、まず、隣に座っていた人が、「自分の息子はゲイなんです。」と言いました。お母さんだったんです。その隣に座っていた同い年ぐらいの女の子が、「自分はレズビアンなんです。」、なんか普通の人やって思ったんです。その隣にいた人が、「私がその人の彼女です。」、全然思っていたイメージと違う。その隣に座っていた人が、「自分はゲイです。」、また普通の人やと思いました。今までどれだけ自分が偏見を持っていたのか、すごいステレオタイプで、色眼鏡で人を見ていたのかということ、そのときにまざまざと実感したという思い出があります。

それからいろんなことを考えていくうちに、自分は小さいときからそんな女性だと思っていたかな、でも男性だって思っているわけでもないとか、この線の間を10年間行き来しまして、すごく男性に寄っていると思ったときもありましたが、今は真ん中にしています。多くの方は私を見て女性だと思って、女性扱いするのですが、それがすごくしんどいです。今を振り返れば、セクシュアルマイノリティの当事者だと自分が気付く前からしんどかったです。

性表現は、若干男性寄りにして、靴もヒールを履くのがものすごく嫌で、こういう革靴を履いています。女性らしいものが本当に嫌で、お母さんとかが誕生日プレゼントに女性の服とかをくれますが、泣きながら「もう要らんから返してきて。」と言うぐらい嫌です。

性染色体についてですが、私は性同一障害という診断名を受けたり、性別を変更して生きたいとは考えていないので、検査をしたことがありません。なので、たぶん女性だと思います。

身体的特徴、性別はお風呂に入るときに体を見て女性かなと思うので、女性にしています。身体的アイデンティティはその体を見て、女性だと思うので、女性に丸をしています。

好きになる相手の性別ですが、皆さんも一緒に考えてほしいのですが、例えば、私と同じ性染色体の方で男性が好きという人がいたら、男性って何なんだろうと考えてみてください。好きな男性がいるとします。好きな俳優とかでもいいです。男性に見えるから男性だと思って、男性が好きなのでしょうか。それとも、その人の性染色体が男性だから、その男性だから好きなのでしょうか。とか色々考えてみてください。

私はそのセクシュアルマイノリティの集まりに、たくさん行っているうちに、カッコいい人やかわいい人がいたときに、色々話していると、男性と思って話していた人が、「自分は戸籍上女性なんよ。」と言われてたりするんです。知らずに好きになっていたら、今までずっと男性に丸をしていたことが揺らぐと考えたりとか。今まで女性を好きになることがあると考えたことがなかったから、こっちに丸をしていなかったけど、レズビアンの子で、私のことを好きと言ってくれた子がいて、その子とやったら付き合えるかもしれない。全然嫌じゃないし、むしろうれしいと思ったりとか、そういうことで、ずっと10年間揺らぎまして、最近出てきている言葉で言うと、今、自分はバイセクシュアルで、Xジェンダー（エックスジェンダー）です。

性自認が真ん中ぐらいの人、若しくは男性でもあると感じるし、女性でもあると感じるということで、全部に丸をする人とかもいます。そういった性別を男女に分けたくない人をXジェンダーと言います。Xジェンダーで好きになる相手の性別は男女にあんまり決めてない、性別に関係なく恋愛をするのでバイセクシュアルかと思っています。

バイセクシュアルの話をする、「男性と付き合ったらいいのに。」とか、「女性と付き合わなかったら困らないんじゃないの。」と言われてますが、それは自分でもそうなのかなと思ってしまいそうになる時もありますが、やっぱり自分のアイデンティティっていうのは変わらないです。今好きな人がいてその人は男性なのですが、付き合う相手が男性であっても、トランスジェンダーであっても、女性であっても、自分がバイセクシュアルでXジェンダーであるというのは変わらないです。なので、男性とだけ付きあえば、幸せになって何も困ることがなくなるというわけではないです。

妹はセクシュアルマイノリティの知識が多くはないので、よく分からないとか言っていたのですが、この間、妹がふと、「少し分かってきた。お姉ちゃんがしんどいのは、付き合う相手に関わらず、お姉ちゃん自身がしんどいやね。」と納得してくれました。その言葉を聞いたときに、それが私の言いたかったことだったと思いました。

皆さんも、この表に自分が丸をするならどこに丸を付けるか、もし相談されたら、その相手もきつとこの表に丸を付けたら十人十色なんだということが少し分かっていただけたかと思います。

では、注意すべき言動。これ、皆さん分かりますよね。よくある差別的発言というものですが、紹介していきます。

「レズ」はだめです。「レズビアン」と言ってください。レズビアンの方の方が自分のことを「私はレズです。」とか、「友達がレズなんだ。」と言ったりすることもあります。客観的に当事者ではない人が使った場合、すごく嫌だと感じる方もいらっしゃるのです。略さずに言ってください。

「ホモ」という言葉、これはもうだめです。テレビでも使ってはいけない言葉になっています。「おかま」もそうです。これもテレビで放送してはいけないという言葉の中に含まれました。「おなべ」もだめです。今、「オネエ」という言葉が「おかま」に代わって使われ始めていますが、やはり使い方だと私は思っています。「オネエ」という言葉を好んで使う当事者もいますが、今、テレビの中、メディアの中で「オネエ」と聞くと、当たり前前に笑われていい存在かのように使われることが多いので、職場とかでは絶対使ってはいけない言葉です。

バイセクシュアルのことを「両刀遣い」とか言われることがあります。英語圏の方が「インターセックス」と言うこともありますが、先ほど内藤さんが説明したように、性分化疾患の当事者の方の中では、嫌だなと感じる方もいらっしゃるのです。注意する言葉です。

よくあるのが、「そっち系」、「あっち系」、「そういう人たち」。こういう言葉は、無意識に使っていると思います。頬に手を当てて、「あっち系じゃないの。」とか、女装して笑いを取る、仲の良い同性同士を見て「あいつらホモか。」と笑う。もしかすると、この中には自分はこういうことはしたことがないと思う方もいらっしゃると思います。たぶん、私はそういうことをしたことがあると思う人はそんなに多くないと思うんです。見聞きしたことがあるという人は、ほとんどじゃないかと思います。

すごく重要なのは、こういう言葉を自分がこうと思うわけではなく、見聞きしたときにどういう行動に出るかということに注意してください。一番いけないのはスルーすることです。見聞きしたときに、例えば、職場の飲み会で、例えば新人歓迎会とかで、優しそうで、きゃしゃな男性に、誰かが「なんかおかまみたいやな。」と言うかもしれないです。そういうときに、一緒に笑わないでほしいです。そこで一緒に笑ったり、笑わなかったとしても、何もしないということは、無意識にその発言を受け入れているということを主張することになります。必ずその場で、言った人も知識がないので、むちゃくちゃ怒る必要はないですが、「うちの会社で、それはタブーやで。」と言ってください。そこでスルーすることが一番NGです。

そこでもし、皆さんが上司としてストップしてくれたら、当事者はいると

思うので、当事者の人に「この人にやったら、何でも相談できるかもしれへん。」と思ってもらえます。信頼関係を築く意味でも、そこで必ずストップしてほしいと思います。

休憩の前に、今から質問を書いてもらいますが、その質問を書いていたいく前に、よくある誤解というのを集めてみました。よく感想に書いてもらうのですが、それはちょっと違いますという話です。

まず一つ目、「セクシュアルマイノリティは辛い経験をしていて、経験豊富で、とても人権意識が高く、幅の広い考え方ができるんですね。すばらしい。」という感想をいただくことがあります。セクシュアルマイノリティだからといって、辛い経験をしているとは限りません、障害者でも一緒です。障害者というだけで、哀れみの目で見られるとか、辛い思いをしてきたみたいな番組などあると思いますが、そうではないです。セクシュアルマイノリティだからといって、辛い思いをしているわけではない。辛い経験をした人が、幅広い考え方ができるかというのも違います。

二つ目、「多様なセクシュアリティについて理解がある。」これもよくある誤解で注意していただきたいです。私はXジェンダーでバイセクシュアルという、小林という人間です。私は私の経験しか話すことができません。私と同じバイセクシュアルの人でも、全然違う悩みを抱えている人もきっとたくさんいると思います。内藤さんはトランスジェンダーで、今、好きになる人は分からないというセクシュアリティを説明してくれましたが、内藤氏さんは内藤さんの体験しか話すことができません。

例えば、同性愛者の方でも、トランスジェンダーの人には会ったことがないと言われる方もいらっしゃいますし、トランスジェンダーの方でも、同性愛には嫌だなという気持ちを抱えている方もいらっしゃいます。LGBTのコミュニティー内で、「バイセクシュアルは嫌い。」と言う人もいます。ここはポイントですが、逆にセクシュアルマイノリティの当事者でなくても、セクシュアルマイノリティの知識を幅広く持っている人もいます。ですので、当事者だからといって知識があるということではないです。一番大切なことは、その人が当事者であるとか、当事者でないとか、職場に当事者がいるとかいないとかではなくて、全員が正しい知識を平等に受けるということが、すごく大切だと思っています。

三つめ、「自分らしさを追求している。」これもテレビとかでよくありがちな、そのように映されがちですが、自分らしさを追求しているわけではありません。ただ、自分の居心地の良い服装をして、居心地の良い話し方をして、今日は私って言っていますけど、文章で書くとき、僕と言います。それは別に自分らしくしたいから使っているのではなくて、ただそれが楽だからです。

まだまだメディアの影響が大きくて、「すごく個性的な人」というイメージが強いかもしれませんが、テレビに出ている人が個性的なのは、当たり前だと思います。芸人さんでも誰でも個性的でないとテレビでは生き残れないの

で、個性的なオネエタレントだけ生き残っていると、ただそれだけです。実際に生きている、地域に生きていて、普通に仕事していて、普通に会社員をしているセクシュアルマイノリティは、そんなに個性的で、自分らしさを追求しているわけではありません。

最後に、「性別に関係なく人を見る目がある。」と言われたりします。これは私がバイセクシュアルですと言ったときに、よく感想に書いていただきますが、性別に関係なく人を見る力というものはありません。恋愛はよく失敗します。

そもそもセクシュアリティというもの、皆さん一人一人にあるセクシュアリティ、私たちにもあるセクシュアリティというのは何かと比べて劣っているとか、優れているとか、比較するものではありません。セクシュアルマイノリティだから偉いとか、この人は辛い経験をしているとか、そういう比較対象ではないということの一つ押さえていただきたいと思います。

今から10分間の休憩を挟みますので、その間に質問を書きおいてください。よろしくお祈りします。

(再開)

○講師 (小林氏)

では、後半を始めさせていただきます。

たくさん質問を書きおいていただき、ありがとうございます。

まず、「身体的アイデンティティの意味が少し分かりにくかった。」という質問です。内藤さん、お願いします。

○講師 (内藤氏)

性自認のことを「ジェンダー・アイデンティティ」と言いますが、自分の性別をどう捉えているかということが、「ジェンダー・アイデンティティ」です。身体的アイデンティティは、あえて言うのであれば、「セックス・アイデンティティ」と言えると思います。それは自分の体をどう捉えているかであって、性自認とは少し違います。私は、自分のことをどちらかと言うと男性と捉えています。身体的な性別はどちらかと言うと中性かと捉えています。このように「身体的アイデンティティ」と「ジェンダー・アイデンティティ」というのは、少しズレがあったりすることもあります。

○講師 (小林氏)

たぶん御質問してくださった方や分からないと思った方は、身体的アイデンティティと性自認の違いが分からなかったのだと思います。中には、それが違うと感じる人もいるということだけ押さえていただけたらと思います。

「左利きぐらいのものだと思います。」と書いてくださった方がいて、まさしく左利きとかAB型の方と同じぐらいの割合です。どのように捉えていた

きたいかと言うと、AB型の人とか左利きの人に出会ったことがないという人はいないけど、セクシュアルマイノリティの人に出会ったことがないという人の方が多いというアンケート調査結果があります。それぐらい表面に出てきてない、まだまだ言いにくいマイノリティだということが言えるかと思います。

○講師（内藤氏）

「銭湯などに入ると、緊張するんですか。」という質問です。

私はトランスジェンダーで、身体的に女性の部分もあって、男性の部分もあるのですが、2箇月ぐらい前から銭湯に行きたいと思っています。胸がふくらんでいなので、男性用を使うことになると思います。見た目はたぶん男性に見えてると思いますが、どうですかね。たぶん男性ですよ。男性器を持っていないので、そこさえ隠せば入れる気はしますが、そこを隠し続けるという、すごい神経を遣ってまで、銭湯に入ってゆったりできるのかどうかという問題があります。銭湯にゆったりしたいから行くのに、そんな緊張していたら意味がないと思うので、今は銭湯に行くことを躊躇<sup>ちゅうちよ</sup>しているところです。

○講師（小林氏）

銭湯が好きな人もいます。セクシュアルマイノリティだからといって、みんな緊張するわけではなくて、私の友人には、スーパー銭湯が大好きな友達とかもいます。

○講師（内藤氏）

私はすごく緊張するタイプです。

次の質問ですが、「近年映画などでBL（ボーイズ・ラブ）などが題材として扱われるのをよく見かけますが、そういったものが広まることに対して、何か思われることはありますか。」

私は、BLが好きです。BLとは男性同士の恋愛もののことですが、それも好きだし、百合と言われる、GL（ガールズ・ラブ）と言われるようなものも好きです。そういうふうに認識が広まっていくのは良いのかと思います。誤っている内容があることも結構多いですけど、それでも理解が広がっていくというのは良いことかと思います。

あとは、BLとか百合に関して言いますと、異性愛もののことをNL（ノーマル・ラブ）とか言うことがあります。私はその「ノーマル・ラブ」という言葉がすごく差別的と感じていて、「ノーマル」は、「アブノーマル」と対比してある言葉ですから、私はヘテロもの、異性愛のことを「ヘテロ」と言うのですが、そういう表現を使っています。

次の質問。「れいんぼー神戸」について。神戸で「れいんぼー」という名称だと、あしなが育英会のレインボーハウスと混同されることはありませんか。」

今まで一度もありません。「れいんぼー神戸」という名前で活動し始めて、今年で5年目になりますが、そういう誤解を受けたことは今のところありません。たまに、性的に奔放な人たちのグループだと勘違いしたメールが来ることはありましたが、それ以外、特にトラブルもなくやっております。

あとは、「過剰に配慮されて逆に困ったことはありますか。」という質問です。

今、定時制の高校に通っていますが、その学校に通ってる中で、この間、内科検診がありました。私は胸も取っていて、上半身裸になっても、たぶん見ためでは分からないと思うんですよ。男性と思われると思います。

「乳首に少し胸を取ったときの傷跡が残っているので、あまり胸を長時間見られると、ばれてしまうかもしれないと緊張します。」ということ、学校の先生には伝えてありますが、内科検診のときに、保健の先生に、「今年は服を脱がずに待機して、まくり上げて検査する方式だから、みんなと一緒にいいかな。」と確認されました。それで問題なかったのですが、「それで大丈夫です。ありがとうございます。」と言ったのですが、健康診断を待っている間、並んでいる最中に、違う先生から呼ばれて、「お前、ここ、内科検診やけど大丈夫か。」と心配してもらって、「ありがとうございます。大丈夫です。」というやり取りを3回ぐらいしました。そのときは、「すごい配慮されてる。ありがたいことやけど、そこまで気にされんでもいいのに。」と思いました。

○講師（小林氏）

「LGBTという言葉を使わない方がいいですか。」という質問がありました。私たちは「LGBTQ」と、「Q」まで付けるのが一番良いかと話していました。「Q」を付けると、セクシュアルマイノリティではない人たちも含めることができます。最近では、「SOGI（ソギ）」という言葉も広まっていますが、そこまで浸透はしていません。そういう「ソギ」というセクシュアルマイノリティ以外の人も含めた「性の多様性」という言葉もあります。「LGBT当事者」という言葉がよく出ますが、それは少し違うと思います。

「あの人は、LGBTだ。」と言うのも少し違うと思います。LもGもBもTも全部兼ね備えている人はいないので、「私はLGBTです。」と言うのは変な感じがします。まあLGBT研修と言うのは別に問題ないと思います。これは言葉遣いの問題で、「LGBTの四つ以外のセクシュアリティもあるんだ。」ということ認識したうえで、しっかりその研修の内容を盛り込んでいただけたらと思います。

男性2名の宿泊の話についての質問です。男性2名の宿泊が、犯罪につながる可能性があるとしてホテル側が考えたのではないかという話がありましたが、例えば、男性から男性の、男の子への犯罪、男性から男性への性犯罪というのは、ニュースにピックアップされやすいんですが、実際、警察の統計では、

男女間の犯罪のほうが圧倒的に多いです。なぜニュースにピックアップされやすいかは、珍しいからニュースになるというだけなんです。その辺りでも、誤解というのが広まっているということでもあると思います。

「女装して笑いを取ることがなぜいけないのか。少し分からなかったです。」という質問です。もし私が、例えば友達グループで、人に言っていない、男性だけど女性の格好をしている、女性に見えるトランスジェンダーの友達がそこにいるという場があったとします。イメージしてください。みんなからは女性にしか見えない、内藤さんの反対バージョンです。女性にしか見えない人がいて、みんなに言っていないけど、私だけには教えてくれている。それで、飲み会で楽しくしているときに、ある男性が女装して、「ほら、女の子みたいやろう。わっはっは。」と笑っていたら、私はたぶんかなり傷付きます。それはたぶん、一緒にいるトランスジェンダーの友達が笑い者にされているような気分になるからだと思います。確かにそのギャップで笑うというのは、楽しいことかもしれないですが、1人でも傷付く人がいるのであれば、9割の笑う人たちを優先したくないというのが私の考えです。

内藤さんはどうですか。

○講師（内藤氏）

そうですね。よく女装コンテストとかあったりしますが、それも別に笑う目的ではなくて、クオリティーを追及しているとかであれば、私は良いと思います。やはりおもしろいだとか、気持ち悪いという前提があつて笑えるという状況になっているので、そういう前提がある社会自体が変わっていかないといけないのかとは思いますが。

○講師（小林氏）

NHKのEテレで、「バリアフリー・バラエティー（バリバラ）」という番組があるのですが、もしかしたら御存じの方もいらっしゃるかもしれませんが、障害のある人が、障害を笑いに変えるという番組で、それにセクシュアルマイノリティの人たちも出ています。M-1グランプリならぬ、S-1グランプリ（障害グランプリ）という番組です。コントをしたり、自分の障害を笑いに変えてネタをしています。トランスジェンダーの方もコントをしたりしますが、私は、それはありだと思います。それは、その場がきちんとセクシュアルマイノリティに対する理解があるということが保障されていて、それは気持ち悪いから笑っているのではなくて、そのネタのクオリティーが高いから笑っているということが、保障された状態だから笑えます。

それと、「日常で遭遇する周囲の反応はどうですか。」という話につながります。ただ街中を歩いていたり、友達と飲みに行ったり、結婚式の祝いの場なの

に、セクシュアルマイノリティのことを笑いに変えるというのは、私はすごく悲しい気持ちになります。これもたぶん賛否両論、当事者であってもなくても、いろんな意見があると思います。

質問に答えながら、スライドも使っていきたいと思います。「カミングアウト」と「アウティング」について話したいと思います。

「アウティング」というのは、自分の中にあることをカミングアウトする。これはセクシュアルマイノリティだけに使う言葉ではなくて、皆さんそれぞれ、人に言いにくいことはあると思います。例えば、子どもなど家族に障害を持っているとか、それはまだ言いにくい社会なのかもしれませんが、そういったことを人に告白するということを「カミングアウト」といいます。

「アウティング」というのが、その告白した内容を勝手に人にばらすことを「アウティング」と言います。この話をする、ちょっといろいろな言葉に詰まってしまうんですけども。

新卒で入った会社で、そのとき私は同性でトランスジェンダーの内藤さんのように手術を全くしていない女性で、見た目は男性の人と6年間付き合っていて、3年間一緒に暮らしていました。その人と付き合っていることを会社の上司に言ったんです。なぜ言ったかという、そこがポイントですが、別に言いたくはなかったです。毎日のように、飲み会の席とかで「結婚せえへんのか。」「今、付き合っている彼氏と、もう長いんやろう。」とか、そういう恋愛話を悪気なく話しかけられていました。でも、私は寿退社する予定もないし、むしろ同性のパートナーだから結婚もできないし、結婚できないのに「結婚するのか。」と聞かれるということが、ものすごいストレスでした。

それで、あるときチーム・ミーティングで話しているときに、「どうなんや。」と言われたときに、「自分は同性のパートナーがいるから、これからは働き続けるし、会社も辞めるつもりはありません。」とはっきり言いました。「頑張ってください。」という感じで言ったのですが、翌週、もう忘れもしない月曜日に会社に行くと、400人ぐらいの会社だったのですが、たぶん、ほぼ半分ぐらいの人たちがそのことを知っていました。後日、上司が飲み会の席で、「小林は女と付き合っているらしい。わっはっは。」と話をしていたと聞きました。私はシステム会社の運用チームという部署にいたのですが、営業の方とか、システムのプログラマーとも一緒に連携して仕事をしないといけないのに、別の部署の人たちにも全部知れ渡っていました。たった一度のこと、その上司にとったら、何気ない一言、全然悪気のない一言だったと思います。ただセクシュアルマイノリティの知識がなかった。ただそれだけだと思うのですが、私はその後に突発性難聴になって、今でも耳が片耳、少し聴力が落ちています。それで人生が変わりました。それから社会が怖くて、バイトを転々として、人に会わなくて済むような仕事ばかりを選んで、4日間しかなくていい仕事ばかりをして、2年間過ごしました。今も定職に就いてなくて、セクシュアルマイノリティに関するNPO法人に2年半か3年ぐらいは

いたのですが、それもセクシュアルマイノリティに理解があるからいられた  
だけであって、今も怖いです。

会社でアウティングされたとき、私はただただ泣き寝入りという感じで、  
すぐ辞めたいと思って辞めたのですが、そのときに唯一救いがあったのは、  
そこで一緒に怒ってくれた人がいたんです。同僚とかも、「言った和香ちゃん  
が悪い。」と言われたのですが、唯一、一人の先輩だけが、「人の人生に関わ  
ることをそんなふうに扱うのはいけない。」と大激怒してくれました。それだ  
けが、そのとき私が死なずに済んだ一言だと思っています。

「日常生活でよく遭遇する周囲の反応とか、自分のことを言っていないとき  
に見聞きする差別的なものってどんなものですか。」と聞かれたんですけど、  
本当に何気ないことです。パソコンを触っているとき、仕事の話をしている  
ときはいいんです。仕事の話をするればいいから。でも、休憩しますよね。ふ  
と、「15時だね。コーヒーでも飲もうか。じゃあ先輩の分もいれてきます。」  
という話。ちょっとした雑談のときに、「そういえば週末って連休だったよね。  
どこ行ったの。」とか言われるわけです。よかれと思って聞いていると思いま  
すけど。私は、もしセクシュアルマイノリティのことを隠さなくていい世界  
だったら、「週末はレズビアン友達とセクシュアルマイノリティのイベント  
があって、台湾でも同性婚が認められたし、すごいいい週末やってん。お土  
産あげるわ。」みたいなことを本当は話したいです。でも言えない。週末に何  
があったのと言われて、「家にいて過ごしてたかな。」という返事になるん  
です。飲み会の席で家族構成とかが分かっている中で、自分に振られたときに、  
「実は、同性のパートナーと一緒に住んでいる。」、それが言えないこととか。

その言えない、この人たちに理解があるかどうか分からないから、私はこ  
こで、セクシュアルマイノリティのことを絶対にばれないようにしようと思  
うとどうなるか。その差別的な言動から逃げようという心理に動くわけです。  
そうすると、飲み会に行きたくなくなります。会社にも行きたくなくなりま  
すし、会社のそういった、「週末、土日とかにバーベキューしようや。」みた  
いなことにも行かなくなります。そうすると、だんだん「小林さんは会社で  
仕事はすごい頑張るのに、とっつきにくい人だな。」というふうになってい  
くわけです。そうやって、だんだん居心地が悪くなって、転職を繰り返すと。

これは、実際に調査結果でもありますが、セクシュアルマイノリティの人の  
転職率は、一般の方よりも多いんじゃないかという調査結果があったりし  
ます。そういう何気ないことが、私はしんどかったりしますけど、内藤さん  
はどうですか。

#### ○講師（内藤氏）

私が少し前まで働いていた会社は、一番偉い上司だけが私の性別のことを知  
っていて、ほかの人達は知らないという環境で働いていました。その会社はす  
ごく良い人が偶然集まっていて、私はあえてカミングアウトはしなかったので

すが、セクシュアルマイノリティの活動をしているということは伝えていました。なので、何か嫌な発言とかがあったときに、例えば先ほどの小林さんがお話ししたような発言があったときに、私が「今の発言は良くないと思いますよ。」と言うことはできました。そのように言うことができるという環境があることによって、差別というのは減っていくと感じています。

#### ○講師（小林氏）

先ほど、差別的な発言や言動で、「ホモ」、「おかま」とかはだめですという話をしました。女だからとか男だからとか、今日までは気付かなかった言葉が、皆さんがお帰りになられて、恐らく会社で気付くようになってきていると思います。気付いてくださったら、私たちがお話しした効果があったのだと感じます。

では、どういう言葉を遣えばいいのか。例えば、誰かが荷物を運ぶときに、「おい男性陣、荷物運んで。」とか言うと思います。別に男性でなくてもいいですよ。力持ちの人が運べばいいわけですよ。男性はこっち、女性はこっちとか。

では、こんな場合がどうしたらいいのかというのをスライドで話していきます。

社員がホモネタで笑っていたときは、先ほど言ったとおりですね。その人を怒らなくていいと思います。これは学校の先生に、「廊下で子どもたちがホモネタで騒いでいたときに、どのように注意したらいいですか。」とよく聞かれます。中には自分が当事者であることを隠すために、あえてホモネタを言って笑いを取っている人もいます。なので、ホモネタを言っている全ての人が悪いのではなく、ひょっとしたら、その人が困っている人かもしれないということを頭に置いて、「どうしてそんなことで笑うのか。私はおもしろくないと思う。」と仰っていただきたいと思います。

今日いただいた質問にもありましたが、「制服、更衣室、トイレが男女別しかないときどうしたらいいですか。」と。

これは、トランスジェンダー用を用意する必要は全くありません。なぜなら、そこを使うことで、そのことがばれてしまうからです。渋谷区の条例ができたときにもニュースになりましたが、いろんなマークありますよね。障害者マーク、男性マーク、妊婦さんマークなど。それで虹色の人みたいな、セクシュアルマイノリティマークというのがありました。それを使ったら、そこに入る度に、セクシュアルマイノリティの人だっただけでばれてしまいますよね。当事者はそういうことを望んでいるのではなくて、ただ普通に制服を着て、普通に更衣室に入って、普通にトイレ行きたいだけです。

では、何ができるか。例えば制服。スカートしかない職場だったら、別に女性用、男性用としなくていいと思うんです。Aタイプ、Bタイプのようにしてもいいと思います。これは、実際に松原高校が行っています。高校や中学校でも、制服が男女問わず選べるところが増えてきています。

松原高校のホームページ、是非調べてみてください。Aタイプ、Bタイプ、

Cタイプとあって、どれを選んでもいいようになっています。ちなみにCタイプは、上ブレザーの下パンツで、男性というよりも中性的なパンツのようになっています。冬の寒いときは、女の子がズボンはいていいよとなっています。

更衣室については、恐らく設備の状況で変えられないことがほとんどだと思うので、カーテンレールを用意してほしいです。それはセクシュアルマイノリティの人だけでなく、例えば、乳がんで体を見られたくない人、体に傷があって見られたくない人にも有効だと思います。

トイレが男女別しかないとき。トイレが、そのビルに1個だけということはないと思うので、いずれか、どこか1フロアのトイレだけでいいので、男女どちらも使える男女兼用トイレを一つ設置して、そこを誰でも使えるようにしていただけたらと思います。男性用の個室にダストボックスがないときとかもあるので、もしそこまで気が回れば、ダストボックスがあるとよりいいかと思います。

履歴書やアンケート。例えば、会員登録時の性別欄に男女しかないときですが、履歴書は、もう男女性別欄がなくもいいと思います。内藤さんはどうですか。

○講師（内藤氏）

そうですね。実際に男女の性別欄がない履歴書というのを採用している企業もあつたりします。

○講師（小林氏）

私が研修させていただいた企業では、企業説明会を大学生向けにしたときに、「男性用・女性用のリクルートスーツで来なくてもいいです。」「性別と異なるスーツで来ても構いません。」ということを書いていたみたいで、すごく良いなと思いました。アンケート欄は、この間ラジオに出たのですが、曲をリクエストするとき男女欄が必須でしたが、それを任意に変えてもらいました。任意にすることで、チェックしなくても使えます。私もシステム会社だったのでよく分かしますが、システムは少し変えるだけすごなお金が掛かります。それを任意にする、その他を作る、自由記載にするというような対応はできると思います。

もし、トランスジェンダーの社員から相談されたらどうしましょう。

○講師（内藤氏）

まず、何に困っているのかということを確認する必要があると思います。もしかしたら、それは制服だとか更衣室、トイレなんかで困っているのかもしれない。それだったら先ほどお話ししたような対処法があります。もしかしたら

同僚との会話で、トランスジェンダーであるということがばれるのではないかと心配しているのかもしれませんが。その場合、企業内で研修をするなどの対処になります。

求められる対応というのは、何で困っているかによって全然違ってくると思います。また、何かに困っているわけではなく、ただ伝えたいから伝えるというパターンもありますので、必ずしも必ず何らかの対処をしなければいけないわけではありません。

#### ○講師（小林氏）

では、同性パートナーのいる社員から、「私、同性パートナーがいるんです。」と人事に相談されたとき。同じですよ。まず何に困っているかを聞いてください。トランスジェンダーだからこれに困っている、同性愛だからこれに困っているという決まりごとは全くありません。まず何に困っているのかを普通に聞いてあげてください。そこで突然驚いて、「どうしたらいいんやろう。」と焦る必要はありません。普通に聞いてください。「私はセクシュアルマイノリティの研修を受けたことがあるけれど、詳しくは分からないから、あなたが困っていることを教えてください」と。重要なのが「カミングアウト」と「アウティング」の話で、「どこの範囲までこの話を伝えていいですか。」と必ず聞いてください。

私の場合ですが、今年の1月に別れたパートナーが、トランスジェンダーで6年間付き合っていたのですが、手術を受けました。相手が手術を受けているときに、休暇を取りたいという相談を受けるかもしれません。自分たちは結婚していないから、何と言って休んだらいいか分からないという相談かもしれないし、もしかしたら、今パートナーと一緒に住んでいるのに緊急連絡先が入っていないから、自分が会社でもし倒れたりとかしても、パートナーに連絡がいかないことを恐れているのかもしれない。ただ一緒に住んでいることを知っておいてほしいだけかもしれないという可能性もあります。状況は色々あるので、普通に聞いてください。一番重要なのは、その会社の中で完結しないでいただきたいと思います。

もちろん本人に許可を取ってお願いしたいのですが、皆さんのお手元のプリントに、団体紹介と書いていますが、電話相談でも企業からの相談を受け付けてくれますので、企業の中で完結させて、分からなかったと済ますのではなく、必ず外部に相談して、「こういう困っている社員がいるけど、こういう対応で間違っていないですか。」と、是非そういうネットワークを活用してほしいと思います。

最後に、LGBTフレンドリー企業になりたいときと、少し分かりにくい言葉で書いているのですが、「LGBTフレンドリー」という言葉、すごくはやっています。「LGBTフレンドリー企業です。」とホームページに掲載している企業もあります。私はこの言葉があまり好きではなくて。本当にフレ

フレンドリーだったらいいです。そういう会社からは、色々商品を買ったりするのですが、フレンドリーかどうか決めるのは、消費者や社員です。

もし、これから皆さんの会社で、セクシュアルマイノリティに関する施策を進めていくのであれば、先に「LGBTフレンドリー企業です。」と言うのは少しリスクがあると思います。そうではなく、まず「勉強会を社内で開催しました。」「社内でこういった性別欄をなくしました。」「履歴書の性別欄を撤廃しました。」とか、そういう実績を作ってから、取り組んでいる姿勢をアピールすることで、結果的に消費者や社員から、「ああ、この会社はセクシュアルマイノリティに対してフレンドリーだね。」と言ってもらう、この道筋がいいかと思います。学ぶ姿勢というのを是非アピールしていただきたいと思います。

もし社内で困ったことや、どのように進めたらいいか分からない場合は、私たちでも相談を受け付けておりますので、よろしければ御相談ください。

ということで、あと5分ぐらいになりましたので、最後に、質問をたくさんいただいたので、答えられなかったものもあるのですが、最後に一言ずつ言って終わりにしたいと思います。

では、内藤さんは、今後どんな会社で働きたいですか。

○講師（内藤氏）

自分がトランスジェンダーだということをアピールしたいわけではないので、トランスジェンダーだということを言わなくても居心地のいい会社。あとはそういう差別的な発言があったときに、「今の発言は差別的だと思うよ。」と言えるような環境で働けたらいいなと思っています。

○講師（小林氏）

私からは、最初に皆さんにお伝えしたことですが、今日お持ち帰りいただく資料を、是非一人でいいので、周りの人に見せて説明してほしいと思います。そのときに、セクシュアルマイノリティについて、全く知らない人だったらどんな反応をするのかを、考察していただけたらいいなと思います。

私も内藤氏さんと同じで、ただ楽しく生き生きと働きたいだけなので、いつか、セクシュアリティのことを自分で後ろめたく思わず、仕事を頑張れる職場に就きたいなと思っています。

今日は長丁場になりましたが、本当にありがとうございました。

○司会

小林様、内藤様、ありがとうございました。それでは、質問カードで御質問をいただいておりますが、改めて御質問のある方はいらっしゃいますか。

○講師（小林氏）

もしなければ、答えそびれた質問が一つだけあるので、お答えします。親と

の関係についての質問ですが、私は父親と母親、妹、おばあちゃんにカミングアウトしています。納得というのはすごく難しいと思います。「カミングアウトは1回ではない。」と、私はよくそういう言葉を使います。

最初に自分はそうかもしれないという前に、本を見せたりだとか、テレビでセクシュアルマイノリティに関して特集やっているときに一緒に見たりだとか、そういったことを経て、「実は自分はそうなんだ。」とカミングアウトをするのですが、言われた方はそのときが初めてですよね。初めてそのときに、「そんなこと考えたこともなかった。」と、そこがスタートです。私の場合は、納得しているかは分からないですけど、10年ぐらい掛けて、だんだんナチュラルにその話ができるようになってきたなという感じです。

#### ○講師（内藤氏）

私は母に17歳のときにカミングアウトしました。そのとき専門学校に通いたくて、せつかく専門学校に通うなら、男子生徒として通いたいと思っていて、母にカミングアウトしました。それで、「迷惑をかけないなら好きにすればいい。」という返事が返ってきました。すごく放任的ですが、とりあえず受け入れてもらうことはできました。

父には2年ぐらい前にカミングアウトしました。両親が離婚していて、父親のところで妹二人が暮らしていて、母親のところで僕が暮らしていたんです。父にカミングアウトしてから、あるときに「おでん食いに来るか」と聞いてくるような感じになったんで、受け入れてもらえたのかなと思っています。

妹たちにはカミングアウトしていないのですが、前は「お姉ちゃん」と呼ばれていたのが、2回に1回「お兄ちゃん」、「お姉ちゃん」と入れ替わるように感じで呼ばれるようになり、今では「お兄ちゃん」と呼んでくれています。カミングアウトしなくても受け入れてもらえてるのかと思っています。

#### ○講師（小林氏）

カミングアウトに関しては、本当に人それぞれなので、家を追い出されたという友達もいます。社会人になって独立していたら、大丈夫と言ったらおかしいですけど、まだリスクは少ないです。やはり親と一緒に住んでいるときにカミングアウトすると、自分の居場所を失ってしまうという怖さから、なかなか親にはカミングアウトしにくいという現状があります。

#### ○講師（内藤氏）

実際に、カミングアウトした日から御飯を作ってくれなくなったという相談も寄せられたりするので、リスクな行為だということを知っていただけたらと思います。

#### ○講師（小林氏）

カミングアウトしたときに、何と言ってもらえたらうれしいかと思い出していたのですが、私は父親の言葉が一番うれしかったです。父親にカミングアウトする前に、セクシュアルマイノリティの本をたくさん見せていました。それで、「クラスに1人ぐらいはいる。」という知識はあったみたいで、カミングアウトしたときに、「やっぱり近くにいるんやな。」と言われたんです。こっちが拍子抜けしましたが、すごくうれしかったです。

内藤さんはうれしかった一言ありますか。

○講師（内藤氏）

友達から「内藤は内藤で変わらへんやん。」と言ってもらえたのは、すごくうれしかったです。すごくありきたりですけど、実際に言われると、重みが違うというか、うれしく感じました。

（終了）